

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成） タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	新潟大学
事 業 名	脳神経疾患に関する高度な臨床研究及び臨床教育の推進事業
事 業 責 任 者	新潟大学医歯学総合病院長・臨床研究推進センター部長 富田 善彦
事 業 の 概 要	
新潟大学医歯学総合病院は、新潟大学の研究の強み・特色を活かして、脳研究所及びヒト脳科学・ヘルスイノベーションセンター（仮称）と協力し、脳神経疾患（認知症、神経難病、てんかんを含む）における国際レベルの臨床研究を推進する。本事業補助金を研究支援者及び医学生・大学院生の TA（ティーチングアシスタント）、RA（リサーチアシスタント）、SA（スチューデントアシスタント）の雇用財源として活用し、診療参加型臨床実習の充実、臨床研究支援体制の強化、医師の教育・研究に必要な時間の確保を達成し、高い見識と優れた医療技術を有する医師・研究者を育成する教育・研究拠点を形成する。脳研究所が保有するブレインバンクを基盤として、国内外の企業やアカデミアとの共同研究や国際会議の開催等を通じて、本邦における脳研究領域の臨床研究を強力にけん引し、本邦発の革新的な医薬品医療機器等の開発及び研究成果の産業化を実現する。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○ヒト脳科学・ヘルスイノベーションセンターを核とする国際研究拠点を構築して脳科学分野における国際レベルの臨床研究、医師・研究者の育成、産学官連携にて商業化の推進が期待できる。 ○新潟大学脳研究所が主催する国際シンポジウムや国内外の共同研究が行われている。 ○大学でブレインバンクを有しており、日本ブレイクネットにも参画している。 ○CRC 及びデータマネージャーの雇用や、既存研究支援部門の多言語対応能力の向上を計画。 ○メンターシッププログラムにて、研究計画や資金調達、研究倫理や能力、研究成果の報告を論文文化までフォローアップしている。 ○臨床研究の推進・診療参加型臨床実習の充実の成果として、達成目標・評価指標が定量的に明示。 ○門田レポートの医行為の経験率の目標に設定しており、積極的な取組が評価できる。 ○研究データ等を共有する計画が具体的に記述されている。 ○医師以外の職種にタスクシフトするため、フレキシブル勤務の採用、リモートアクセスやオンコール体制、教育研究時間の割当等の導入している。 ○病院長が代表責任者を務め、脳神経疾患に係る内科と外科と研究の各トップが参画している。 ○診療経費を財源に人材と研究時間を確保し、本事業で高めた研究で外部資金の調達を計画。 ○進捗状況を定期的に確認しながら年度別事業を進めて行く計画になっている。 ●脳神経疾患領域にとどまらない多様性も求めたい。 ●国内外の機関との連携についての具体的な記載がなく、拠点大学としての役割が見えづらい。 ●働き方改革の取組が一般論に終始しており、当該施設の状況に応じた具体的な取組も望ましい。 ●勤務管理システムの最適化に関しては、効果の具体性が欠ける。 ●事業の運営並びに進捗を評価する組織体制が不明確であり、外部評価も検討することが望ましい。 ●本事業で開発した成果が財源となるため、知的財産が適切に管理され、適切に社会に広がることを期待したい。 ●ヒト脳科学・ヘルスイノベーションセンター（仮称）の本格始動が本事業の鍵でありロードマップが関係者に共有されることが望ましい。	